武生ルネサンス通信

2017.7.10

276 号

7 月例会のお知らせ

日　時　　：　7 月 22 日（土）　19:30～21:30
場　所　　：　府中町屋倶楽部
内　容　　：　講演　「アメリカ人社会学者が見た越前」
講師　グーベン・ピーター・ウイットビン氏
(Guven Peter Witteveen)

ウイットビンさんは、1984 年に丹南地区のいくつかの高校で、生きた英語を教える ALT として、この地に来られました。その 4 年後に、日本語の勉強と、博士論文のデータ収集のために再び武生を訪れ、最初の来日から 10 年後の 1994 年文部省の研究用奨学資金によって 3 度目の武生訪問が実現しました。

■今年も新暦の 7 月 7 日に七夕祭りをするところが多く見られましたが、「七夕」は「しちせき」と読み、年中行事の中で特に重要とされた五節句の一つです。節句の日にはみんなが仕事を休むのに、普段怠けているものが、一人だけこの日にことさら忙しそうに働いていることを笑って「怠け者の節句働き」と言ったとか。五節句は次の五つです。

人日（じんじつ）　正月七日
上巳（じょうし）　三月三日
端午（たんご）　五月五日
七夕（しちせき）　七月七日
重陽（ちょうよう）九月九日

これらはすべて旧暦の日付です。因みに今年の旧暦七月七日は、新暦の 8 月 28 日で、上弦の月の前日です。上弦の月はお昼出て、真夜中に沈みます。月の出は毎日約 50 分遅れますので、七夕の日は夜の 11 時少し過ぎに月が沈み、空は真っ暗になりますので、天の川がくっきりと見える筈です。それに 8 月の末は空も澄んでいますし。ところが新暦の 7 月 7 日は梅雨の真っただ中。その上今年はその夜は十四日月で、殆どひと晩中月が明るく照らしていて、天の川が見えるどころではありませんでした。子供たちにも正しいことを教えたいものだと思います。

■先月は日葡辞書に取り上げられている福井弁について、井上清一さんにご講演いただきました。やむなく出席できなかったけど、資料を欲しいと、思われる方は、お申し出下さい。お渡しいたします。

■さて今月の例会は、社会学者ウイットビンさんに、『TAKEFU’NESS』（武生ルネサンス出版部）を上梓された 1995 年当時の武生と、現在の越前市を比較しながら、どういう変化が見られるかについてお話を伺いたいと思います。

『TAKEFU’NESS』は、ウイスコンシン州立大学文化人類学部の博士論文作成のために、1994 年 4 月から 1995 年 1 月までの 1 年間にウイットビンさんが武生で調査なさったことのまとめです。「武生は古いまちで昔の面影が今も残っているまちだ」という認識で、彼は調査の対象を武生に決めたようでした。当時非常に熱心に色々な人の話を聞いて、メモし、纏め上げておられた様子が、懐かしく思い出されます。

何処の地方都市も同じかもしれませんが、私たちの街の中心市街地もかなり疲弊してきて、今や活性化は難しい状況になっているように思います。ウイットビンさんは、今まちのあちこちを自転車で周り、色々なことを考えているそうですので、お聴きしましょう。